

# 「古典籍画像に基づく ICT活用教育プログラムの開発」 に関する後継研究

## 1、目的

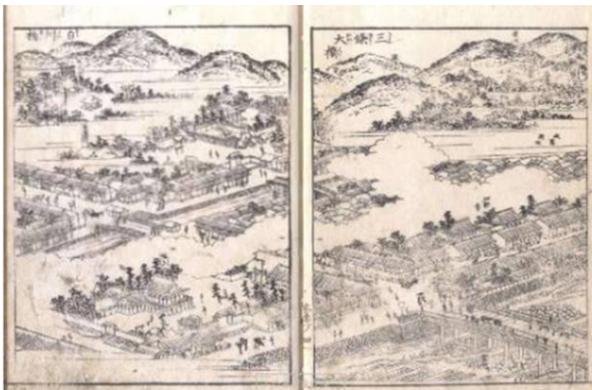
国書データベースの画像をICTに利用することで、無償の教育プログラムとしてネット上で供与する。

## 2、これまでの成果

古典籍を**双六**と**カルタ**の形式で教材化する、という構想をたて、副読本を作成。



## 秋里籬島編『木曾路名所図会』 文化2(1805)刊



国文学研究資料館蔵<https://doi.org/10.20730/200018956>

京都・三条大橋から江戸・日本橋に至る中山道の地誌。

名所図会は、名所・名物・関連する古典文学作品などを詳細な絵とともに解説した、近世版ガイドブック。

→双六

## 鋏形蕙斎『諺画苑』

文化5(1808)年刊



国文学研究資料館蔵<https://doi.org/10.20730/200007684>

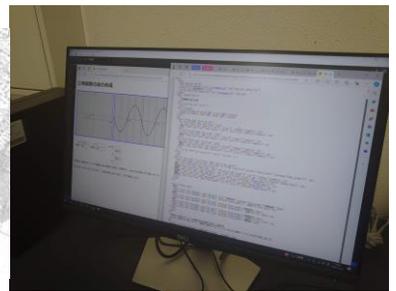
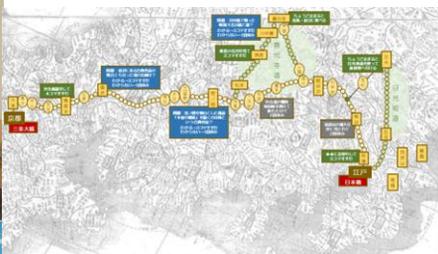
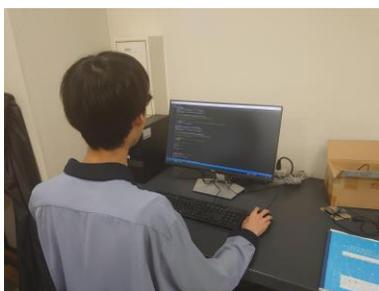
愛嬌のある絵で、寺社・旧跡・地名・勝景地などの由緒来歴や、道中模様、諺などを解説した絵本。

→カルタ

## 3、今後の展開

実際にネット上で供与するため、まずは双六のプログラム作成に取り組んでいる。

下記は、協力者である豊田工業高等専門学校の学生さんが、先生の指導の下、プログラムに取り組んでいるところ。



共同研究者 大野亙（豊田工業高等専門学校）、中村綾（愛知学院大学）、速水香織（信州大学）、宮本祐規子（大阪大学、研究代表）